

トークセッション

暮らしとアート

平成26年(2014年)2月、長年にわたって市民に親しまれた市民会館をしのぶ企画展「豊中市立市民会館 おみくり展」が開催されました。

美術家伊達伸明さんが企画したこの展覧会では、かつての市民会館の建物の一部(柱や壁、看板など)を全く違う視点からとらえた展示を行い、建物としての役割を終えた市民会館の思い出を、新たな姿で人々の心に浮かび上がらせました。

アートがそこに介在することにより、何気ないまちの風景が、今までと違ったまちの魅力として私たちの前に立ち現われます。暮らしとアートが結びつくまちの魅力を、豊中に暮らしアーティストに語っていただきました。

Profile



原久子さん

アーティスト、大阪電気通信大学総合情報学部教授。国内外で現代アート、映像、メディアアートの展覧会・イベント企画、研究を行う。共同企画に「思い出のあした」(京都市美術館)、「六本木クロッシング2004」(森美術館)、「あいちトリエンナーレ2010」(愛知県美術館ほか)他多数。共編著に『変貌する美術館』など。



伊達伸明さん

美術家。大学在学中より楽器、音に関わる作品制作を始める。2000年より「建築物ワクレレ化保存計画」(その建物の歴史や思い出をワクレレとして残す活動)を開始。まちの歴史の断片を題材にしたアートプロジェクトの企画やダンス公演に出演するなど、活動は多岐にわたる。



富長敦也さん

彫刻家。2013年から、ハート型の石の彫刻を各地で人々と一緒に磨くことにより、世界中がつながりあえる「Love Stone Project」を開始する。第25回UBEピエンナーレ(現代日本彫刻展)大賞受賞。



片山和彦さん

アートディレクター。大阪市内でギャラリーを運営。絵画・立体・写真・インスタレーション、映像、ダンスパフォーマンスなど、アーティストたちの個性を活かした様々なジャンルの展覧会を企画し、注目を集めている。



亀谷彩さん

漆作家。「ハレ」と「ケ」をキーワードに、モノや道具それぞれ自身が生み出す世界を漆で造形化する。「世界工芸コンペティション・金沢」入選、「朝日現代クラフト展」(2002年)準グランプリ受賞他受賞歴多数。

原 実際に豊中にお住いのみなさんは、アーティストの立場から見ると、豊中というまちをどのようにお感じになっていますか。

豊中のアート資源

片山 これまでは、日々の暮らしと仕事を分けて考えていましたが、改めて豊中をアートの視点で見ると、著名な作家の作品が身近なところにあたりするの気がつきました。自分の住んでいるまちのアートの要素を掘り起こしたいという気持ちがありますね。

原 豊中はギャラリーはそれほど多くないですが、これからは既存の展示空間にこだわらず、歴史的な建物やいろんな場所で展開する可能性を掘り起こすことも必要でしょうね。

亀谷 例えば、岡町にある江戸時代の庄屋敷「桜の庄兵衛」では作品展や音楽イベントを定期的にされています。でも意外に知らない人も多いかもしれません。

富長 僕が住んでいるのは待兼山ですが、美術を教えている庄内や、そのほかに服部緑地、千里ニュータウンなど、豊中は地域ごとにまちの表情が違う。いろんな表情があると、様々なアートの可能性につながります。

原 千里ニュータウン周辺には、パブリックアートが多いのにあまり知られていませんね。

片山 そう、まちなかの作品の解説や、制作に至る過程などもわかる取り組みが加われば、関心をもって見てもらえるのに残念。学校教育でも、作品を鑑賞する目を育てるという視点があると良いのでは。

富長 アートは万人のもの。いろんな人がいろんな感じ方ができることが大切。教育を始め、いろんな機会に社会とアートの関わりを考えていくと、可能性が広がると思います。



伊達 同感です。僕は創る側だから、気になる素材をどう「料理」したらおもしろくなるかなと思うので、そういう目で豊中を見るようになってから、豊中がおもしろくなってきたって感じですね。

富長 僕はそれまでは、ひとりで作品をつくっていたのが、東日本大震災が契機になって、各地の人と一緒に石を磨く「Love Stone Project」を始めました。それと同時に自分が暮らし地域とどう関わりたいという気持ちが強くなりました。豊中では音楽の活動は盛んですが、それ以外のアートはこれから可能性が大きいと思うんです。

伊達 僕の場合は、いわゆる美術的な価値をもつてないものに関心が向かいます。取り壊される家のように、誰も美術作品の素材にないと思っていないようなものを、僕なりの視点を加え「こうも見えるよ」と提示したいと思っています。

片山 僕の家は何代も前から豊中に住んでいるので、僕にとっては「田舎」でもあるんです。豊中にはいろんなまちの表情があり、人の暮らし方にも多様性がある。そんな多様性をアートの目線で見ると、何かおもしろいことができそうな資源がたくさんある気がします。